



Christian Science Sentinel, March 30, 2009

## 許す決意

### Resolved to forgive

Libby Hoffman / リビィ・ホフマン

許すことにおいても、平和の構築においても、あらゆる仕事の、あらゆる段階で、靈感に導かれて実践することが求められる。

私たちは、単に何かしら争いが存在するというだけで、失敗を予想してしまう誘惑にかかりやすいのです。私は、これまで平和を構築する仕事に携わってきて、紛争状態なかで建設的にことを進めた結果、大きな成果が得られることを幾度も目撃してきました。しかし、それでも、私個人に直接かかわる紛争に直面すると、大変苦しんでしまうのです。私は屈服してしまったり、逃げてしまったりして、それを避けようとしたり、あるいは、自分の主張を堅固に守って勝利しようとしたりします。しかし、厳しい経験を通して、このいずれの行動も、つまり、逃げることも、闘うことも、健全で持続的な解決には導かないことを学びました。

聖パウロのローマ人への言葉は、紛争が必ずしも破壊的であるとは限らず、大いなる飛躍台になり得ること、むしろ、なるべきことを、私に教えてくれ、感動を覚えています。「**神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている**」(ローマ 8:28)。パウロは、悪も、**神の意志を実現する一つの道**であるとして、悪を認めてはいなかったと、私は認識しています。そうではなく、**神は私たちのために善を存分に備えていると**、パウロは確信していました。パウロは、**神の国には、善が不在であるとか、善が働かないような場はないと**、理解していました。この理解が深まることにより、私は危険が迫っていると

Author's Name / Libby Hoffman

他の日本語記事については、次をご覧ください: <http://www.spirituality.com/christiansciencesakigake/index.jhtml>

© 2010 The Christian Science Publishing Society (CSPS)  
この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事を手紙(メール)で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を手紙(メール)で送ったり、ウェブサイトに載せたりするには、[copyright@cpsps.com](mailto:copyright@cpsps.com)宛に、メールを送ってください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

思われる状況のなかで、**神**が、関係者すべてに備えている恵みを、探し求める姿勢を保つことができました。

逃げるか、闘うか、という反応を乗り越える第一歩は、自分の目的を**神**の目的と一つにすること、すべての行動が、**神**の求めに促されたものにする事だと認識しました。目的をこのように聖なるものとする事は、一回限りの行動ではないのです。**神**の計画に耳を傾け、識別し、信頼し、応えるために捧げる、絶えざる祈りに根ざした経過なのです。この**神**の計画は、完璧であり、その完成のために必要なすべての要素を包含しています。この計画が展開されるときに、私たちが直面するすべての状況は、恵みをもたらすことを、信頼していることができます。本誌の創刊者、メリー・ペーカー・エディは、「...進歩は**神**の法則である。そして、**神**の法則は、わたしたちが確かに成就できることのみをわたしたちに要求するのである」(『**科学**と健康』、p.233)と述べています。

私は国際平和を築くために活動するある財団を運営しています。過去1年半にわたって、11年に及ぶ内戦で荒廃した西アフリカの国、シエラレオネで、人々や地域社会が、和解し、国家再建に向かう計画を、支援するために働いてきました。この仕事をしていて、私は、驚くべき謝罪と許しの実例を目撃してきましたが、それは、一般の人々の示す勇気と慈しみ、また、想像を絶する最悪の人的屈辱や損失を超越する、回復力と実行力を照らし出してくれました。戦闘のなかで手足を失った人々が、自分たちを不具者にした兵士たちを許したのです。元反乱兵であった人たちが、村々を焼きはらったことを告白し、地域社会に再び迎え入れられ、許されているのです。そして、これらの人々が、村の再建に立派な役割を果たしているのです。地域社会が、再び一つとなって、一体感をもって再生しているのを見て、私は畏敬の念に打たれました。すべての事が、共に働いて、万事を益となるようにしていることを、目の当たりにしてきたのです。

このような回復力と、許しの力を目撃して、私は、新たな決意で自らも反省して、平和構築に対する私自身の基準を高めなければなりませんでした。そして、この決意を実行しなければなりませんでした。

「もしあなたが、許しに焦点を置いた企画を進めているのなら、あなた自身が許しを実践するという挑戦を受けることに、きつとなりますよ」と、ある友人が言いました。そのと

*Author's Name / Libby Hoffman*

き、私は彼女の意見を一笑に付してしまいましたが、それが現実のものとなったのです。私の財団の別の企画で、許しと和解に関わるものがあり、その企画を支援してくれている業者との間で不和が起こったのです。一度は、早期に解消されたのですが、それが再燃し、拡大して、あっという間に、企画全体を揺るがし、脅かすものとなりました。

この事態について祈っていると、関係者すべてがどれほど献身してきたか、そしてこの企画を支えるために私たち一同がどれだけ犠牲を払ってきたかを認識しました。私は、これらの意見の相違を解決できると確信していました。神が、それまで、私たちの一つ一つの歩みを導いてきたことを、見てきたからです。

しかし、私の仲裁のための最善の努力は、成功しませんでした（そして、その時点においては、私がそのために捧げた祈りもまた、成功しなかったように思われました）。この紛争は拡大し、請負業者は企画そのものを乗っ取って、私たちの権限を奪おうとしていました。これは、企画の高潔さを汚し、私の財団の信頼を失わせ、そして、そのとき非常にデリケートな段階で、和解の交渉をしていた当事者たちを、傷つける可能性があると思いました。私は、不安と、この企画に対する責任感にさいなまれ、圧倒され、そしてそれ以上に、この企画が利益を代表している人々に及ぼす影響について考え、苦しみました。そして、突然、私は、本格的な法廷闘争に巻き込まれていることを知ったのです。

私は自分にできる最も大切なことは、**神**の指示に耳を傾け、誠実にそれに従うことであることを承知していました。それでも、考えを静め、相手の行動に憤慨して高ぶった感情を乗り越え、そして、それらによって起こるかもしれない結果に対する不安を乗り越えることは、なかなかできませんでした。

そんなとき、詩篇の作者の次の言葉が、私を目覚めさせてくれました：「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください」（詩篇 119:18）。私は、**キリスト教科学**の実践士に、私の考えや努力を支えてくれるように依頼しました。そしてその後で、自分の仕事は、紛争のなかで法の働きをどのように自分に有利に動かすかを考え出すことではないということに、気づきました。むしろ、私の仕事は、人生は人間の意志によって支配されるものではなく（私の人生であれ、誰の人生であれ）、常に働いてい

*Author's Name / Libby Hoffman*

る宇宙全体を支配している神性原理に支配されていることを、もっと十分に知り、感じ、証明することだったのです。神の宇宙に、2種類の人が存在するはずはないのです、つまり、神の声に応える人と、応えない人、つまり、異なった規範に基づいて行動する人々が、存在するはずはないのです。

私は、パウロの約束、「神を愛する者たち、すなわち、この計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さること」を思い出しました、そして、この認識が、紛争の行方に対する不安から、私を解放してくれました。一步一步、前進しよう、そして、その時々に必要なものは示されることを信頼していればよいと感じたのです。自分の動機を清め、また、神がどのように既に善を实らせてくださったか、その方法に感謝していると、今後の過程で、たとえ何が起ころうとも、神は、前進しようとする考えの一つ一つが展開してゆくように、守り、支える、ということ、を、ますます明確に知ることができました。

私は直ぐに解決されるように願うことを止めるべきであることに気づき、また、こんな紛争が起こっていることは、自分が平和を築くために働く者として、またキリスト教科学者として、失敗していることを示している、という考えを捨てなければならないことに気づきました。問題解決を私個人で実現するという自己満足を手放して、紛争を調停したいという願いを進んで捨てること、そして、神性の真理が働いていることを信頼して、示されるべきことは示され、関係者すべてが聞いて理解できる方法で、語られるということに信頼しなければなりません。メリー・ベーカー・エディの言葉に従って、「もはや肉体について戦うことはなく、わたしたちの神の豊かさを喜ぶ」(『科学と健康』、p.140)ことを決意したのです。

恐れに屈しないことから前進して、「敵を愛せよ」(ルカ 6:27)という聖書の勧告に積極的に応えるため、私は、立ち上がらなければなりません。これは、私にとって、この企画を葬り去ろうとしていると思われる人々のためにも、祈るということでした。私の祈りは、他の人々を変えようとするものではありませんでした。しかし、自分がその人々について抱いている考え方を変えることができました。それは、つまり、神が彼らを見るように、私も彼らを見ることであって、彼らを、私的な計画を追求している我意の強い人間としてではなく、むしろ神の国の市民として、従って、私と同じように、神の国の法則に支配されている人として、見るということでした。私は、調和の神性の法則が存在し、

Author's Name / Libby Hoffman



公正であると思う解決策を、明確に守らなければならないということでした。私は、相手の反応を想像して、恐れる必要などなかったのです。そこで私は心静かに、自分の信ずるところを述べて、明確に線を引きました。すると、驚いたことに、相手方がそれを受け入れたのです！

この解決を与えられ、私は神に感謝しました。しかし、それ以上に、一つの神のみが働いていることを更に十分に、一步一步示されたことに対して感謝しました、しかも、敗北に脅かされながらも、この心が支配していることを信頼することができることを学んだことに感謝しています。

人生が神に導かれるように委ねる、すなわち、神の「ご計画に従って召された」ように委ねると、全ての企画、すべての活動において、癒しがもたらされる機会が沢山与えられるのです。神の計画は、それを達成するために必要な全ての要素を含んでおり、私たちは、たとえ混乱の中を歩んでいても、この事実の中に宿る権利があるのです。

リビィ・ホフマンは世界の平和構築に捧げる財団、Catalyst for Peace の創立者、また理事長である。

*Author's Name / Libby Hoffman*